

開催日時 9月17日(木曜日) 10:30 - 12:00

科学技術情報サービスを活用した研究力強化支援

URAは、大学等において、経営から研究戦略、研究者支援に至るまで中核的な役割を担っており、その成果についても高い評価を得ている。今後のさらなる研究力強化・支援のためには、人材、資金、環境面における課題を解決し、研究者が研究に専念できる体制を整える必要がある。科学技術振興機構は、ファンディングだけでなく、科学技術情報流通システムの構築・運営を通じて研究開発を情報面から支援する情報事業も展開している。本セッションでは、URAの研究支援活動に活用いただくため、JST情報サービスのうち、researchmap、ジャパンリンクセンター(JaLC)、J-GLOBAL、JSTプロジェクトデータベース、J-STAGE Dataについて紹介する。

【researchmap】

登録者数30万人超えの日本の研究者情報を集積するデータベース。昨年度にリニューアルしたresearchmap.V2の新機能の紹介とあわせて、URAがプレアワード業務、運営支援業務において活用できる便利な利用方法を提案する。

【ジャパンリンクセンター(JaLC)】

ジャパンリンクセンター(JaLC)は、日本で唯一のDOI登録機関である。今年度はORCIDとの連携を開始し、「ORCID連携機能」をリリースした。JaLCに登録したコンテンツをORCID上でも業績として簡単に登録でき、研究者による業績の把握・公開が容易となるため、研究活動の支援に資することが期待される。

【J-GLOBAL】

研究者、文献、特許、研究課題、機関、科学技術用語、化学物質、遺伝子、資料、研究資源の10種類の精度の高い科学技術情報を一度に検索でき、発想を支援する横断検索サービス。大学の研究者、研究テーマ等に関する情報の効率的な収集など、URAの業務に役に立つJ-GLOBALの使い方を説明する。

【JSTプロジェクトデータベース】

科学技術振興機構が競争的資金制度等により推進してきた2万件以上の研究課題に関する情報を一元的に検索・閲覧できるデータベース。研究開発マネジメントに向けてデータ分析等を行われる方向けに、今年から開始したデータの一括提供サービスについて紹介する。

【J-STAGE Data】

昨今、ITの急速な発展により研究ワークフローは大きく変化してきている。中でも研究データの公開は特に注目を集めている。科学技術振興機構が構築したJ-STAGE掲載論文に紐づくデータのためのリポジトリ「J-STAGE Data」の紹介を交え、オープンサイエンスの文脈で研究データ公開の意義について概説する。

セッション担当者



波羅 仁：国立研究開発法人科学技術振興機構

情報基盤事業部 研究成果連携グループ 兼 研究事業情報グループ
調査役

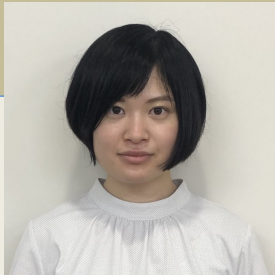
民間企業を経て2006年に科学技術振興機構に入構。ファンディング事業(国際事業、戦略事業)、経営企画部などを経て2019年から現職。現在はジャパンリンクセンター(JaLC)およびJSTプロジェクトデータベースなどを担当する。

登壇者



粕谷 直: 国立研究開発法人 科学技術振興機構
情報基盤事業部 人材情報グループ
主査

学生時代は生物資源学、統計学を専攻し、資源量推定や環境変動耐性に関する研究で修士号を取得したのち、2018年4月に科学技術振興機構に入構。以来、researchmapの企画・運営に従事している。



三村 のどか: 国立研究開発法人 科学技術振興機構
情報基盤事業部 研究成果連携グループ
係員

2020年4月に科学技術振興機構に入構。以来、ジャパンリンクセンター(JaLC)事務局および、研究データ活用協議会(RDUF)事務局を担当している。



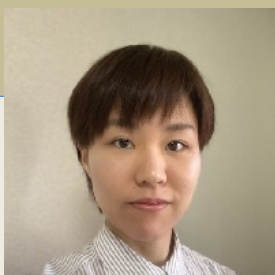
川村 優実: 国立研究開発法人 科学技術振興機構
情報企画部 知識インフラグループ
主査

学生時代は工業化学を専攻し、電気化学検出用の新規電極材料に関する研究で修士号を取得したのち、2018年4月に科学技術振興機構に入構。以来、J-GLOBAL(科学技術総合リンクセンター)のサイトリニューアルに携わるなど同サービスの企画・運営に従事している。



佐々木 弥生: 国立研究開発法人 科学技術振興機構
情報基盤事業部 研究事業情報グループ
主査

2000年4月に科学技術振興機構に入構。競争的資金の公募・実施管理・評価や理数教育支援にかかる業務等を経て、2019年4月より現職。JSTプロジェクトデータベースの企画・運営を担当している。



重松 麦穂: 国立研究開発法人 科学技術振興機構
情報基盤事業部 研究成果情報グループ
係員

学生時代は発生生物学を専攻し、造血幹細胞の形態形成に関する研究で修士号を取得したのち、2019年4月に科学技術振興機構に入構。以来、J-STAGEの企画・運営に従事している。